



教えて！  
営農さん

## 発芽が遅れると収穫時期にも影響 種を発芽させるために必要な要素

野菜や果物を栽培するには、まずは種を発芽させる必要があります。種を発芽させるために知っておきたい温度・酸素・水の関係や、種の性質や種類についてご紹介します。

種が発芽しなかった、土の中で腐っていたなどの相談も多く寄せられる春。揃い良く発芽させて安定した収量確保を目指しましょう。

【編集担当】  
営農振興課  
荒川 恵梨奈



「教えて！営農さん」では、農産物の栽培に関する情報をお届けします。

### 種の発芽に必要な3要素

発芽の条件は、適切な温度、酸素、水の3つの要素が揃った時です。このうちの1つでも欠けてしまうと、種は発芽することができなくなってしまいます。

発芽の  
3条件

水分

種に水分が浸透することが、発芽のきっかけになる。

発芽が  
成功

酸素

種の細胞が呼吸をするのに不可欠。種に蓄えられた養分の分解、利用にも使われる。

温度

適切な水分と温度があると、種は休眠から覚め、呼吸を開始。

### 発芽に影響を与える「光」と、発芽適温について

種には、好光性種子(光に反応して発芽)、嫌光性種子(光に反応して発芽が抑制される)があり、光は、3要素に加えて発芽に影響します。また、発芽の適温も種により異なります。

種類	発芽適温(地温)	好光性/嫌光性
シュンギク	約15~20℃	好光性
ホウレンソウ	約15~20℃	嫌光性
ネギ・タマネギ	約15~25℃	嫌光性
ニンジン	約15~25℃	好光性
トマト	約20~30℃	嫌光性
キュウリ	約20~30℃	嫌光性

※種のまき方は種により異なります。好光性種子は、土を薄くかける、もしくはかけない。嫌光性種子は、種の直径の2~3倍の深さに植えるようにしましょう。



発芽率を高めるために加工された種も販売されています。小粒の種をまきやすいように一定の大きさ、形状に加工したコート種子や、固い殻を取り除き、水分の吸収が良くなるよう裸状にしたネーキッド種子、畑にテープを引いて、土を被せるだけで等間隔で種まきができるシードテープなどがあり、JA広島市でも取り扱っています。種を植えたのにもうまく発芽しないときなどは、地区担当の営農指導員にご相談ください。



「発芽適温」とは、種が発芽するのに最適な温度のこと。種の絵袋の裏に「発芽適温(地温)が15~25℃」と記載してある場合は、1日の気温(地温)がこの間に収まっている時期が種をまく適期になります。



はじめての家庭菜園

栄養価が高く、セリに似た香り  
アシタバ

今日、若葉を摘んでも明日にはまた新芽が伸びてくることから「明日葉」の名が付いたともいわれます。一度植え付ければ長い期間収穫できるので、1鉢あると便利です。

### 1 植え付け

深く植えないように注意

鉢に培養土を入れ、苗を植え付ける。根鉢を崩さないように中央に置き、培養土を足し入れる。苗の表土と同じ高さまで土を入れたら、ならして水をしっかりと与える。

### 2 増し土・追肥

追肥は定期的

土の表面が下がってきたら、茎の分かれ目に土を被せないように土を足す。5~10月の成長期に様子を見ながら薄めの液体肥料を定期的に施す。なお、増し土をした後は土に栄養が含まれているため、1ヵ月程度は追肥の必要なし。

### 3 収穫

照りのある葉が新葉

照りのある新葉を収穫する。茎が枝分かれしている部分の少し下を切る。硬くなる前に収穫するように気を付ける。



#### ここに注意

●比較的病虫害の少ない野菜ですが、キアゲハの幼虫が発生しやすいので注意。早期に発見してすぐに駆除するようにしましょう。

#### 栽培のポイント

- 夏は直射日光に当てないようにする。
- 収穫の時は次の葉が出てくる部分は残して収穫する。
- 冬は肥料やりを中止する。

参考文献: コンテナでつくるはじめての野菜づくり(新星出版)  
からだにおいしい野菜の便利帳(高橋出版)

#### 用意するもの

- 苗 ●培養土 ●鉢(7~8号)
- 鉢底石 ●液肥

#### 栽培カレンダー

